

東工大ワークショップ支援

松本英敏

学術支援グループ

1 はじめに

震災の余韻が冷めやらぬ中、被害の大きかった益城中に於いて東工大が「熊本の未来をつくろうものづくりワークショップ」を開催することになった。ものくり工房には主として3Dプリンターについて協力要請があり、8月17日に私と募集した2名の学生で対応したのでご報告する。



図1 益城町被災状況（益城中技術室から撮影）

2 プログラム内容

震災を契機として、未来を担う中学生が益城町のこれからを考えることを目的に開催された。参加者は中学生が10数名、益城町近郊の中学校の技術科教諭6名、3Dプリンター愛好会から数名、熊本大学から4名であった。プログラムはイントロダクションの後、各団体の自己紹介、ワークショップの内容説明と続き、アイデアを各グループで考え、形にしていっていった。3Dプリンターは使用講習を行った後、パーツの製作などに用いた。一部は記念品などを製作した。

最後にグループ毎のまとめを発表し、先生から全体を通しての講評があり、全員による記念撮影でワークショップを終了した。



図2 ワークショップポスター

3 おわりに

参加した中学生、支援した大学生も大変な刺激を受け、これからの実生活に生かすことと思う。私自身もイベントに参加し、このような貴重な経験ができたことに大変感謝している。

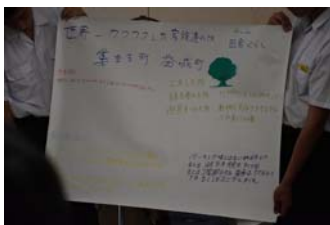


図4 まとめ発表風景と3グループの作品集



図3 支援した熊大生（情電、建築）

